

令和2年度第1回酒田市行財政改革推進委員会議事要旨

日時 | 令和2年7月14日(火)

午前10:00~11:46

場所 | 酒田市役所 第1委員会室

出席委員(8人)

阿部直善	委員	佐藤由美	委員
池田千里	委員	小野英一	委員
佐々木一美	委員	橋本朋佳	委員
富士直志	委員	三木潤一	委員

欠席委員(1人)

齋藤 緑 委員

~~~~~

酒田市側出席者(1人)

丸山 至 市長

事務局出席者(3人)

|      |         |         |               |
|------|---------|---------|---------------|
| 金子俊幸 | 行政経営課長  | 阿 蘩 秀 一 | 行政改革主査兼行政改革係長 |
| 齋藤茂喜 | 行政改革係主任 |         |               |

~~~~~

1 開 会

(略)

2 市長あいさつ

(略)

3 議事

(1) 令和元年度実績報告

○委員

達成しているかどうかを評価しているが、本来からいけば租税負担によりその事業をすべきかどうか、その上で費用に対する効果が測られるべきだ。達成したとしても莫大な費用が掛かるというのでは良いとはいえないし、未達成でも成果に見合わない費用を抑止したというのであれば悪いことではない。費用との関係が重要だ。なお、費用の方は、それなりに把握できるが効果の評価が難しい。今後の行革を進める上では、できているかどうかだけでなく、このような視点も必要だ。

○委員

取り組みについては、概ね評価したい。未達成の項目が6つあるが、これらのものは目標設定が妥当だったのか。逆に、目標に対し実績が上回ったものは目標が低すぎたのではないのか、ということにも注意したい。単に目標を達成したから良いというものではなく、目標の妥当性を確認する必要もある。目標は、到達可能なものにするのが大切だと考える。次の計画では、目標設定について吟味をすべきだ。「番号32 地域コーディネーターの養成」については、目標も少ないものとなっている。だからと言ってやめるという事業ではない。同様に、17ページに記載されている市民参加に関する取組も、難しく今後も試行錯誤の連続だと思うが、市民が主体的に参加できる仕組み作りを次の計画でも進めてほしい。なお、市民が関わる16、17ページの取組について、目標を達成できていないものについては、目標の妥当性を含め検討して欲しい。

○委員

「番号17 個人番号カードの多様な利活用」について、個人番号カードの普及率が13.8%で達成と評価されているが、そもそも普及率の目標をどの程度としていたのかが不明で分かり辛い。例

えば、「番号69 応援したくなるふるさと納税制度の再構築」のように、数字に関するものだと評価がしやすく分かり易い。全体として、目標数値を定めるなど、もっと分かり易くなるといい。

#### ○事務局

税金をかけてやることなのか、そしてどのような効果を求めるのかの分析評価ができていないといけなと当方でも考えている。

目標値については、収納率など一部数値目標を変更しているものもある。そもそも目標数値は、クリアできるようなものが適当と考えている。

「番号17 個人番号カードの多様な利活用」については、「達成」と判断した根拠を調べ報告する。

#### ○市長

目標設定が妥当だったのかは問われるところだ。成果ではなく取組を目標にするようなことは、ある意味、“逃げ道”を準備してるようなものだ。費用対効果が目的であるものについては、費用と効果を両方示すべきだろう。本来は、策定段階で目標設定が合理的であるかを吟味する必要があったが、それには時間もかかるしコストの議論も必要だ。また、何が要因で達成できなかったのか、それらをきっちり分析すると、相当に時間と労力がかかる。本来は、そのくらいシビアに目標設定と評価が重要なのだらうと考える。委員が指摘した疑問については、実は我々も同様に感じていたことである。次の計画の策定を1年延期にした理由の一つとして、皆さんの意見を適切に反映したいという思いもあった。

#### ○委員

全体的に評価基準が不透明であると感じる。以前から優先順位を定めるべき、という意見を述べているが、重要度・難易度が高いものが未達成となっているものが多いと感じる。また、市長から“逃げ道”という話もあったが、単に「推進した」ということで「達成」としているが、その結果、どうなったのか分からないのが不満な点だ。推進したなら何かしらの結果があるはずだ。計画期間の途中ではあるが、そのことについても記述してほしい。

#### ○委員

「番号27 女性活躍推進法に基づく特定事業主行動計画の推進」について、“推進”することが目的となっているが、設定した目標がどの程度達成されたか知りたい。

#### ○委員

課題に対する分析が行われるなど、全体としては評価できる。委員会での議論も取り入れている点は感謝したい。数少ない未達成事項の一つに、「番号10 文書管理システムの導入」があるが、いわゆる“モリ・カケ問題”、“桜を見る会問題”などがきっかけとなって公文書の管理について注目され関心も高まっている。情報公開と文書管理はワンセット。地味だけど非常に重要なことなので、頑張してほしい。庄内地方だと鶴岡市のプレミアム付き飲食券に係る政策変更の記録が問題となっており、議会からも強く追及されていると聞いている。公文書管理条例の制定を目指すとの記述があるが、是非、頑張してほしい。

#### ○事務局

「達成」と評価したが、その先にどのような成果があったかが抜けているとの指摘があった。なんとなく、できているような文章が並ぶのは適当でない。そもそも測定できないことは評価できない。可能な限りすべての項目を数字で評価できるものに目標を限定するよう次期計画では精査したい。

公文書管理条例については、庁内で検討を進めているが、情報システムの構築と条例を一体として考えるか、分けて考えるのかについて意見が分かれているところだ。また、“永久保存”として取り扱う文書は毎年増えるわけだが、どこかに保存するにしてもいずれはスペースが足りなくなる。デジタル化によりその解決を図るのか、そもそもの文書管理のありかたが問題なのか、など、庁内で議論を重ねている。

#### ○委員

目標設定についてだが、クリア可能な水準に上乘せしたものとすべきと考える。思いがけない災害などが起きている中で、目標にプラスアルファがないと実際は維持すらできない。目標値の考え方について整理が必要だ。

#### ○委員

市民が見てわかるものという観点から、“やりました”だけではなく、その結果、“どうだったのか”を記述する必要がある。件数だけでは不十分で、項目によっては例を示すことも必要だ。重点項目については、記載も細かく因果関係も分かったが、他の項目については担当課の主観なので分かりづらい。市民が見て、理解できる書き方に改めるよう検討してほしい。また、個々の取組についての“達成”、“未達成”は分かるが、全体として市が意図した目的が達成されているのかにも言及する必要もある。

#### ○事務局

目標値について、先ほど、「そもそも目標数値は、クリアできるようなものが適当」と述べたが、クリアしなければならぬ数字をクリアできる体制を作る、という意味であった。

#### ○市長

行革計画は、基本的に内部事務に関するものだ。本市には様々な計画があるが、体系的に一番上に総合計画があり、規模で言えば次に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」がある。これらの計画の中に、行財政といった内部的なことについてもわずかに言及しているが、将来的にどうあるべきかということには触れていない。本来なら、行政サービスの向上を図りながらスリム化を目指す取り組みが必要だが、これというものが示せないでいる。“身を切る”のは簡単だが、サービスが充実しないでは意味がない。例えば、職員の数をどのように決めていくかという課題でも、なかなか目標を定めるのは容易でないが、酒田モデルとなるような計画を作っていきたい。

#### (2) 次期計画について

#### ○委員

資料2の1ページの図が分かりづらい。総合計画や総合戦略の図の大きさや言葉の関係性も分かりづらい。公表するなら分かり易くないと、かえって市民が混乱すると考える。

#### ○委員

行革は、全事業が対象であって、内部管理を中心にするというものではないと考える。また、「改革目標1 生産性の追求」では、コストに対する生産性というように費用との関係が強く意識されるような内容がふさわしい。

#### ○事務局

総合計画や総合戦略というのは、固有名詞である。総合計画は、市全体を網羅する計画で、総合戦略は、正しくは「まち・ひと・しごと創生総合戦略」というが、主として人口減少への対策についての計画だ。これ以外にも、これらの計画の部分計画などが、それぞれの部署で進められている。ちなみに、図の大きさに特に意味はなく、一番大きいのが総合計画で、その中で様々な計画や施策があるということ表現したかった。

また、総合計画などで網羅されている分野は、それぞれの計画に任せたい。行革計画はそれを下支えするためのもので、内部的なものに絞り、重複しているものは次期計画に盛り込まないというのが基本的な考えだ。

#### ○市長

現在の行革計画は、そもそもはかつての「集中改革プラン」が発端で、補助金をもらうために国の指導に基づき計画を作らなければならなかった。総合戦略も同じで、国から作れと言われたもので、自発的に作ったものではなく義務感で作ったものだが、その意味で検討が足りてなかった部分もあったと感じている。様々な計画があるが、総合計画が基本で、子育て、地域福祉計画などの個別の計画

も、総合計画と食い違いわないようなものを作っている。行革計画も同じだが、行革計画は公に議論される部分が少ない。市町村の財政状況は市町村ごとに異なり、内部の管理は自分達が自分事として組み立てられるものだ。サービスの維持・向上を図りつつ、酒田市の財政・職員を前提にいかにかコストを圧縮するかと言う内部管理に焦点を絞った計画が必要と考えている。現在の行革計画は、見方によっては総合計画にも重なっている。例えば住民協働は、総合計画にも掲載されており、他の計画とは役割を分けようという考えだ。

○委員

計画の評価も、各々の計画でという形か？

○市長

本来はそうあるべきだが、各々の計画に行革委員会のような組織があるわけではない。だからと言って、例えば行革委員会で総合戦略の進捗を評価してもらうとなるとそれも大変だろう。そこが実は悩んでいるところだ。総合戦略を作るときは市民 200 人を巻き込んで策定したが、評価については明確に決められていない。

○委員

去年の委員会でも同じような議論がなされた。ちなみに、教育委員会の文化芸術推進計画では、文化芸術推進審議会が毎年評価している。

○委員

計画の策定期間がずれているということも計画の推進を困難にしているのではないか。行革計画も、総合計画に策定タイミングを合わせ推進していくという方法もあると考える。総合計画、総合戦略があって、さらに行革計画を作るのではなく、他計画の内部的なものに寄せ集めて評価を担うという形もありうるのではないのか。計画が多すぎるとすべてが計画倒れになる。計画と役割のあり方が分かり易ければそれぞれの任務が果たせる。

○市長

それができれば望ましい。計画の策定は一生懸命だが、実行状況の検証や評価は、な お ざ りというのが本市の実態だ。計画期間も含め、計画を整理しないと計画につぶされてしまう。

○委員

資料にある「方向性①～③」は、むしろ分かりづらいので、無くした方が良いかもしれない。

○委員

言い足りないことや、気づいたことがあれば、事務局に意見を出してほしい。

(3) その他

(略)

4 閉 会

(略)

午前 11 時 46 分 閉 会